



を披露しています。
バレエは美しさを競うものなので普段から姿勢に気を付けて生活しています。また、トゥシューズを履いてレッスンを長時間していると、どうしても足が痛くなってしまうのですが、笑顔で楽しく美しく踊ることを心掛けています。
現在は先生方のご指導のもと男

女各1人で踊る花形の「パ・ド・ドゥ」を踊れるように練習を重ねているところです。今後はコンクールでの入賞を目指して表現力の強化を図り、夢であるプロのバレリーナになれるように高校生になっても続けていきたいです。



細山田中学校
やました まき
山下 真季 さん(3年生)

中学2年生の時から生徒会図書部のカウンター当番を務める。みんなに多くの本を借りてもらうために、ポスター製作や校内放送をしている。とにかく踊ることが大好き。



バレエの衣装を初めて見たことがきっかけで、2歳から「鹿屋バレエ研究所」でバレエを習っています。レッスンは週2〜3回程度で、2年に1回の発表会や毎年鹿屋市文化祭等に参加して演技



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!



タイムトラベル ~温故写新~

30話

古江駅誕生100年



今から100年前の大正12年12月19日、大隅鉄道の古江駅が誕生しました。昨年12月には古江駅誕生100周年を祝う記念イベントが地元町内会によって行われ、鉄道とともに生活していた当時を懐かしみました。
鹿屋の鉄道の歴史は、私鉄「南隅軽便鉄道」が大正4年に高須〜鹿屋間を開業。翌年には「大隅鉄道」に名称を変更し、大正10年に鹿屋〜串良間、2年後に古江〜高須間が開通。昭和10年に国鉄となり、翌年串良〜志布志間が開通、13年には古江線と改称、そして47年に国分まで開通し、「大隅線」が完成しました。旅客貨物輸送として活躍しまし

たが昭和62年3月14日、惜しまれながら大隅線は廃止となりました。
古江駅は海潟まで開通する約39年間、転車台があるなど終着駅としての役目を担いました。その間、古江町は鉄道関係者や鹿屋港関係者、行商を行う人などの往来が頻繁にあり、加えて古江〜鹿児島間の定期船も運行され、一時は町内に旅館が3軒あるなど賑わっていたといえます。

現在、古江駅跡は古江鉄道記念公園として地域の憩いの場に整備され、駅舎もそのまま残されています。その他にも、古江町には鉄道が走っていたことを物語る鉄道用の古江トンネルや色灯信号、高架跡等様々なものが残されています。古江町に足を運んで鉄道の面影を追ってみてはいかがでしょうか。



▲昭和62年古江駅の旅客運賃表



▲大隅線廃線時の記念入場券